

令和8年度第1回八潮市学校適正配置指針・計画策定委員会について

開催日時：令和8年4月28日（火）午後2時00分～午後2時50分

開催場所：八潮市役所4階4-2会議室

公開状況：公開

傍聴者数：4名

審議結果：下記のとおり

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 連絡事項

八潮市学校適正配置指針・計画（案）及び北部地区個別計画（案）に対する
意見募集の実施結果と対応について

・資料に沿って事務局から説明

【質疑応答等】

委員：令和8年度は複式学級になっているとのことだが、現状をもう少し詳しく説明してほしい。

事務局：八條北小学校の2年生と3年生は複式学級となる児童数であるが、現状は1人担任外の先生を配当できたため、それぞれの学年に先生が付いており、今までどおりの指導ができている状況である。

委員：同じ教室の中で、2年生と3年生が同時に授業を受けているのか。

事務局：今までと同じような形で、教室を別々に分けて授業が行えている。

委員：2年生と3年生の人数は。

事務局：8人と8人である。

委員：現在それぞれの学校では特色ある教育活動を展開するという
ことで、各学校で特色を出すために子どもたちと教職員が取り組んでいるところかと思うが、八條北小学校は特色ある教育活動を進めている最たる学校だと捉えている。一番多かったご意見の中に統合時期を延ばしてほしいとあるが、私は八條中学校でも小規模特認校の対応をさせていただいており、卒業するまでは通っていただくという条件のもとで保護者から受け取った書類を教育委員会に提出していた。当然、八條北小学校に通っているお子さんたちはそういった形で入学されて、親御さんもお子さんにそう説明している。そう考えたときに、いずれ統合というのは何年先かわからないが有り得ることなのかもしれないが、令和10年度というのは、非

常に期間として短く感じる。今築いている教育活動の特色を統合後も活かすであるとか、子どもたちの気持ちや学校生活をより良くしていくために、準備を整えるために、非常に期間が短く感じる。埼玉県に限らず、県外でも日本中いろいろな形で統合が進んでいると思うが、これほどの短期間で統合に至った地域や学校があるのか。そのあたりのところは検討されているのか。

事務局 : 今回の統合は八條小学校の中に八條北小学校の児童が入るということで、ハード面でのハードルはそれほど高くないと考えている。しかしソフト面として、児童の気持ちの部分等は考えていく必要があるので、令和10年4月から統合となるのであれば、令和9年度中から交流活動等を実施して対応していくことができると思っている。また、統合準備委員会は令和8年度の途中から立ち上げて、統合に向けた協議をしていければと思っている。短期間ではあるが、現状複式学級が出ているためできるだけ早く対応しなければならない。早期の統合を求めるとご意見もいただいているため、取り組んでいきたいという考えである。

委員 : 児童数が減少して複式学級に制度上至っている学校でも、様々な工夫、考慮、配慮をしながら、子どもたちの生活が複式学級にならずに継続しながら、何年も先を見通して統合を検討して準備を進めている地域もあるのではないかなと思う。そういったことも工夫次第で可能なのではないかな。

事務局 : 複式学級となると、教員の配置の部分で懸念される。令和8年度に関しては、事実上別の学年という扱いで続けられているが、恐らく来年度以降はそのような対応ができないのではないかなと思っており、できるだけ早急に対応していかなければならないとの方向で議論している状況である。

委員 : 今年度、複式学級ではあるが各学年に教員を配置し、実質単式学級で運営できていることは理解した。来年度も同じ児童数であった場合に、今年度と同様の形を取れる可能性があるか。

事務局 : その場合には今年度と同じ形ができないか、繰り返し県にはお願いし続けていきたいとは考えている。

委員 : 今年度の八條北小学校の全児童は何名なのか。

事務局 : 70名である。

委員 : 70名に対して最低限配置しなければならない先生の人数が決まっているということか。

事務局 : そのとおりである。

- 委員 : 70 名に対し、校長先生、教頭先生もいなければならないし、教職員の先生方、養護の先生もいなければならないという状況は、先生があまり多くないと言われている中で大変なのではないかと思う。
- 委員長 : 2・3 年生以外の学年で 8 名になりそうな学年はあるか。
事務局 : 現状では 2・3・4 年生が 8 名・8 名・8 名、新 1 年生は 12 名である。
- 委員 : 以前の話だが、埼玉県西部の小学校の複式学級を見学した。その時は 1 人の先生が 2 つの学年を同時に見ていたが、非常に大変である。静かに座って授業を受けてくれる子どもばかりであれば良いのだが、自由奔放に動いている子どもが多いので、席に座らせるだけでも大変である。その後の先生との話し合いのときに、先生がおっしゃっていたのは、まず教材研究が大変だということである。2 つの学年の国語、算数、理科、社会等を全部教材研究しなければならない。子どもの実態に合わせて毎年指導方法も変えなければならない。それから、悩みを打ち明ける同僚がいない。非常に孤独感を感じると言っていた。ただ、一方では密度が濃い分だけ、先生と子どものふれあい、深まりはあるかもしれないと言っていた。複式学級の担任をする先生は、非常に精神的にも体力的にも力を要すると感じた。
- 委員長 : 学級担任の話があったが、私の学校では特別支援学級が 1 クラスに 2 学年あるいは 3 学年入っている。1 つの学年の授業をやっているときは、もう 1 つの学年は市から配当される介助員等に見ていただくという形で対応しているが、そうすると 1 時間の中で 45 分あるうちの 20 分と 25 分といった形の授業になっている。それが通常学級でも行われると、他の学校では 45 分の授業ができるのに、複式学級では 20 分や 25 分になってしまう。子どもたちの教育にとってそれがいいのか。複式は絶対になってはいけない。今年度はたまたま 1 人加配が来て、各学年に 1 人ずつ教員が付いたということだが、来年度、もし付かなかつた場合は大変だと感じる。子どもたちにとっては今までどおり、八條北小・八條小が良いけれども、複式学級を考えると、現実に切羽詰まっているので、統合も進めていかないといけない。統合に向けては早めに交流などの体制も整えていかなければならないのではないか。
- 委員 : 先生の数の話があったが、配置される人数は法律で決まっている。今年度は教育委員会が県へお願いをして、定数以外に加配がついて、ようやく何とかうまくいった状況だと思うが、県の加配はどんどん削減されている。来年はいくらお願

いをして、予算の関係もあるので、かなり厳しいのではないかと感じている。市費で先生を雇ったらいいいじゃないかという話も以前出ていたと思うが、市費で募集をしても集まらなかった地域もあるので必ず市費で雇えるとも限らない。八潮市も少人数指導補助教員等の会計年度任用職員を非常に多く配置していて、それでもそういう状況になってしまう。かなり厳しい状況であることが想像できる。

委員 : 今までの会議を聞いていて、早めに統合した方が良いと私は思っている。今後は今年度のように教員の配置によって複式学級を回避できるという保証はないので、早期に統合した方が良いと思っている。ただ、八條北小の保護者と話す機会があり、子どもたちや保護者の中では心配な声を多く聞いているということだった。小規模特認校制度が良くてこの学校に来ているのに、という風に思っている方もいると思うので、交流活動や統合までのスケジュール等をしっかり教育委員会の方で練ってもらえれば良いのではないかと考えている。

委員 : 資料を見ると、ほとんどがDである。意見を反映できない、しないというのは、何もやっていないとみられるのではないか。

事務局 : 表現としてこのようになっているが、八條北小学校は統合しないでください、あるいは今通っている児童がいるうちは統合しないでくださいという意見が多く、「意見を反映しない」というよりは「反映できない」というニュアンスが強いと考えている。市である程度決められている区分に沿っているので、そういった表現になってしまっている。

委員 : 私もこの文章を見たときに、厳しい意見だと思った。保護者の方や地域の方のご意見を見ると、八條北小学校に通って愛着をもっていて、学校を大事にしてきたという思いが強いので、統合に対しては少し抵抗があり、延期してほしいという気持ちがあるのは当然理解できると思う。ただ、教職員の人数や児童数のことを考えると、今後さらに厳しくなっていくという現状があるので、その辺は丁寧にお伝えしていくしかないのではないかと。特別支援学級で2つの学年が入っているクラスを見る機会があるが、児童数が少ないと、子どもの人間関係も少なくなり、いろいろな子どもと遊んだり勉強したりする機会が失われてしまう、ちょっと寂しくなると感じるところがある。まして、人数も10人前後の形となると、その友達との関係で6年間行くとなると、子どもの心の成長だとか、いろいろな成長に対して足りないところが出てくるの

ではないかと、日ごろ子どもたちを見ていて感じるところである。保護者の方や地域の方は統合を心配されていると思うが、人数の多いところで多様な経験ができることが子どもの教育にも有効であることを丁寧にお伝えしてご理解していただく方向で進めていくのがいいと思った。

委員 : 資料3の2ページ、課題のところに、「小規模校のデメリットばかりとられがちですが、メリットも本当にたくさんあります」とある。保護者の方側からすると、メリットはたくさんあると言っているが、教育委員会からするとメリットをどう捉えているのか。

事務局 : 子ども一人に対して先生が手厚く見てくださるということで、小さな変化にも気づきながら対応してくれる、授業しながら個別に様子を見てくれるなど、丁寧に進めてくれる、先生と子どもの距離が近い、保護者と先生の距離も近いので、より近い形で子どもたちと先生と保護者が地域と一緒にやっていくというメリットが考えられる。それが一番大きな小規模校のメリットと捉えている。

委員 : それは先生がいることが前提ということによいか。

事務局 : 先生がいることが一番大事だと考える。

4. その他

議事録は市のホームページで公開する。

次回の策定委員会は5月下旬に答申を予定する。